

# タブレットはテレビのベスト・パートナーか

テレビ放送事業者は、タブレット（特にiPad）に恋をしている。テレビ番組、ネットワークはタブレット向けのアプリを開発し、多チャンネル事業者はタブレットで番組検索、DVRの操作を可能にしているだけでなく、iPadに番組「放送」も始めている。タブレットは、スマートフォンより画面が大きく、より多くの情報を見やすく表示できる。さらに、その利用はテレビ視聴時が多く、タブレットはテレビのベスト・パートナーだと思われる。

## Nielsen社が2011年5月に発表 タブレットとテレビの相関関係

タブレットとテレビがどれほど一緒に使われているかに対しては多くの統計がある。Nielsen社が2011年5月に発表したデータでは、タブレット利用者の70%はテレビを見ながら頻りにタブレットを使っていると答えている。時間の配分では、タブレットを使っている時の30%はテレビを見ている時であった。テレビを見ながらタブレットを使っていることが多いのであれば、タブレットはテレビの良いパートナーになるはずである。

しかし、事はそれほど簡単ではない。果たして、テレビとタブレットが良いパートナーであるかどうかは、テレビを見ながらタブレットで何をしているかである。同じNielsen社がテレビを見ながらタブレット、あるいはスマートフォンを何のために使っているかを調べた結果で最も多かったのは、電子メール（番組中60%、CM中59%）であった。続いて、番組とは関係のないWebサイトを見る（番組中46%、CM中45%）、ソーシャルネットワーク（番組中、CM中ともに42%）、スポーツの得点を調べる（30%）で、テレビの放送内容とはあまり関係ないことに使われ

ているのが主流であった。番組に関連したことを調べるが29%、CMの製品を調べるが19%、CM関連のクーポンを探す13%で、下位となっていた。

これでは、タブレット利用者は単にマルチタスクをしているだけであり、テレビのパートナーになっているとは言えない。広告代理店のRazorfishとYahoo!が共同で行った調査でも結果は同様で、モバイル端末利用者の80%はテレビを見ながらモバイル端末でマルチタスクをしていると答え、その38%はテレビ視聴をエンハンスしている思い、38%は逆に邪魔をしていると感じている。

## Yahoo!のIntoNowと AT&TのソーシャルTVアプリ

テレビを見ながらのタブレット利用をプラスの方向に持って行く鍵は、ソーシャルネットワーク（SNS）だという考えがある。今の問題は、SNSの

利用者が自主的に何の番組を見ているかを報告しないと、仲間にはわからないことがある。自動的に何の番組を見ているのかを報告する仕組みがあれば、SNSとテレビの統合が可能になる。

Yahoo!のIntoNowは、テレビの音声から何の番組を見ているかを自動的に判断する機能を提供している。また、多チャンネル事業者のDIRECTV、それにAT&Tは、それぞれのSTBに特定のSNSアプリケーションに対して、どの番組が視聴されているかを自動的に報告する機能を搭載している。

AT&TがサポートしているソーシャルTVのアプリケーションでは、見ている番組から自動的に同じ番組を見ている仲間を捜す機能、また逆に仲間を選ぶことで、そのグループが見ている番組に自動的にチャンネル切り替えられる機能等がある。これら機能により、テレビとSNSを融合させていくことができる。

しかし、これがテレビ視聴をエンハンスするか、あるいは邪魔するかはわからない。仲間が何を見ているかを知ることが、チャンネルザッピングを増やすことになり、SNSをエンハンスすることにはなるが、テレビ局にとっては邪魔になるという意見もある。 

### \*The Compass ニュース\*

NSIリサーチは、アメリカのデジタル放送とインターネットTVの動向を伝えるマンスリーレポートのThe Compassを出版しています。The Compassのサンプル購読がご希望であれば、compass@nsirinc.comに会社名、氏名を含めたEメールをお送り下さい。

